

教育センター通信

ほど 火床の火の心を紡ぐ

第5号（通算第24号）
平成27年8月31日
三条市小中一貫教育推進課
教育センター 発行

150名の指導・活動支援スタッフで展開された16のブースを866名の参加者が巡り、思い思いの科学体験を楽しむ1日となりました。写真は「地震に強い家の仕組みをさぐろう！」（長岡造形大学）のブース活動の様子です。



第11回わくわく科学フェスティバル（8月7日）

教師は授業で勝負する！

教育センター 丸山 修

私が毎週欠かさず見ているテレビ番組の一つに、日曜日午後5時30分から放送される「笑点」があります。1966年（昭和41年）から続いている長寿番組です。長く続いているだけでなく、視聴率で毎週ほぼ5位以内に入る「お化け番組」です。なぜ、そうなのか？面白いからと言ってしまうかもしれませんが、そこには大きな秘密が隠されていると思うのです。まず、“大喜利”でメンバーを束ねる司会の歌丸さんのリーダーシップ。そして、番組を構成する演出家等多くの人の総合力。それにも増して、出演者一人ひとりの抜群の力量ときらめく個性に負うところが大だと思います。例えば木久扇さん。メンバーからも笑われるキャラクターを装っていますが、実際は違います。しっかりした話芸に裏打ちされた、観客の笑いを計算し尽くした“おとぼけ”であり、“うっかり”なのです。

翻って、学校教育ではどうでしょうか？学校教育の成否も教師一人ひとりの力量に尽きると思います。私も教師は教育のプロフェッショナルです。素人ではできないことをやれなければなりません。注意散漫な子どもを振り向かせる、数字アレルギーの子どもに算数の面白さを味わわせる、個性溢れる三十数人の子どもたちの集団を共に認め高めあう学級集団に作り上げる、それがプロです。そして、教師が教育のプロである原点は、やはり授業です。教師が担う「不易」の役割とは毎日の授業で子どもを育てることだと思います。まさに、“教師は授業で勝負する”のです。

授業で勝負できる教師は、学び続ける教師です。忙しい日々ですが、自己研鑽に努め、校内研修や中学校区小中合同研修等で、互いの実践に学び合い、授業力を磨いてください。そして、10月の全国サミットの公開授業では学び合う子どもの姿で“三条市の小中一貫教育”の成果を示しましょう！教育センターは全力で学校現場を支えます。残すところ51日です。共に歩み、がんばりましょう！

今号は“全国サミット in 三条”で授業公開を行う4つの中学校区 of 取組を特集しました。7月、8月に実施された「中学校区小中合同研修会」を取材し、まとめたものを2～5面に掲載しました。

第3回小中合同研修会…第二中学校区

10月に開催される「小中一貫教育全国サミット in 三条」に向けた標記研修会が、7月9日（木）、一ノ木戸小・第二中で開催されました。支援校区の栄中区を始め、多くの市内教員が参観しました。

【授業公開① 11:30～12:15 一ノ木戸小3年2組、3組「算数：表とグラフ」】

中学校3年生が各学級に7名ずつリトルティーチャーとして入り、算数学習の補助を行いました。棒グラフをかく際、かなりの技能が必要で個別指導が必要なところ（グラフをかく手順や定規の使い方、線の引き方、棒の色塗り等）を支援しました。その結果、一人一人が安心して取り組み、正確に棒グラフをかくことができました。また、縦軸（人数）の1目盛りをいくつにするかグループで話し合う際、中学生が支援してくれたので、普段話せない子どもの発表する姿が見られました。

【授業公開② 13:40～14:30 第二中2年総合Dグループ「総合：地域で仕事をしよう」】

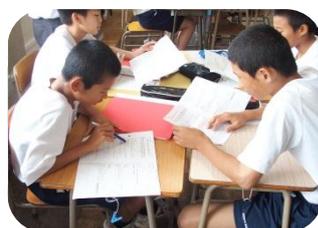
夏休みに行く「地域での職場体験」に向けた事前学習を行いました。マニュアルをもとにした訪問先への電話によるアポイントメントをグループ内で行ったり、予想外の場面での対応の仕方を考えたりしました。日常生活にも応用できる内容に生徒は興味を持ち、意欲的に学習していました。



公開授業（3年2組算数）



公開授業（3年3組算数）



公開授業（中学2年総合）



全体研修会（藤田晃之様）

【全国サミットの公開授業の構想】 ※全体指導で藤田先生から個々について指導がありました。（割愛）

学年	教科	単元名	授業のポイント（アピールしたい点）
1年	生活	あそびにいろいろよ～あきのおそび	幼稚園・保育園の園児との交流による展開
2年	生活	つくって あそぼう	小学校、中学校理科教員によるT・T
5年	外国語	Lesson5 What do you like?	小学校、中学校英語科教員によるT・T
6年	理科	てこのしくみとはたらきを考えてみよう	小学校、中学校理科教員によるT・T
6年	理科	月の形と太陽	小学校、中学校教員の連携した授業づくり

【全体指導：筑波大学人間系教授 藤田晃之様】

1 前回（6月11日）の復習 ～日本の小中一貫教育をリードし続けるために～

①目標・実践・評価の更なる一体化をめざそう

目標（身に付けさせたい力・できるようにさせたいこと）が具体的に becoming になれば、それを疑問形に変換してアンケート調査項目が作れるし、小・中間のバトンの受け渡しもできる。

②それぞれの活動のねらいを再点検しよう

どのような活動も常にねらいを再点検し、その活動を通して「今」「この子たちに」伝えたいことを意識しないと、形骸化し、ノルマ化する。（例）乗り入れ授業、小中交流、職場体験

③家庭・地域社会との連携を更に充実させよう

生まれ育った場所＝地域。地域を愛すること、誇りに思うことは自分自身の育った場所、育ったプロセスを愛すること。それが自己肯定感の基盤となる。

2 本日の授業公開について—指導案及び授業参観でよかった点— ※紙面の都合で課題については省略

- ・小3算数 中学校3年生のリトルティーチャーの学習補助を生かした授業展開。
- ・小3算数 小学生相互のグループ内討議の効果的な設定。
- ・中2総合 「学びの系統性」と「地域とのつながり」を意識した構想。
- ・中2総合 中学生が興味を持ち、日常的にも応用可能な電話によるアポイントメントの授業化。

3 共通する課題

校区として身に付けさせたい力についての直接的言及がほとんどない。「あってもなくても同じスローガン」に終わらせてしまうのはもったいない。今後検討し、改善してほしい！

三校研修会「夏の陣」…大島中学校区

大島中学校区では、「小中一貫教育全国サミット in 三条」に向けた標記研修会を8月5日（水）、須頃小学校を会場に開催しました。大島中学校区のテーマは「小規模校における人間関係づくりを中核とした取組～学び合う授業・協働する教職員・つながる地域～」です。大島中学校区の教職員全員が集い、全体会及び部会では真剣な協議が終日続きました。

当日は、奈良教育大学教職大学院教授 小柳和喜雄様を指導者にお迎えし、下記の日程で行われました。

1 全体会Ⅰ

◆全国サミットに向けた諸準備及び当日の運営計画について

◆プレ協議会発表

- ・人間関係づくり ゴミ拾いウォーク（協働する教職員）
- ・小小交流 カリキュラム授業
- ・SST
- ・乗り入れ授業

◆全国サミット当日の授業についてのご指導（小柳和喜雄 教授）



（全体会Ⅰ）

2 部会Ⅰ

◆全国サミット当日授業の細部の検討①（小中一貫教育カリキュラム授業）

- ・国語部会 社会部会 算数・数学部会 理科部会 外国語・英語部会

◆全国サミット当日授業の細部の検討②（乗り入れ授業）

- ・小6社会 小6体育 中1数学

3 全体会Ⅱ

◆全体指導（小柳和喜雄 教授）

〈昼食・休憩〉

4 部会Ⅱ

◆全国サミット当日授業の細部の検討③

- ・小2生活 小4社会

◆全国サミット全体発表の骨子についての検討



（全体指導）



（プレ協議会発表）



（部会）

【全体指導：奈良教育大学教職大学院教授 小柳和喜雄様】

〈全国サミット当日のプレゼンテーションについてのご指導〉（一部抜粋）

- ・大島中学校区の取組について、何を目指し、どのように進めていくのかについて最初に話があり、実際の効果についても示されているので非常に説得力がある。
- ・「島中絆タイム」と小小交流、SST、乗り入れ授業についての関係がもっと見えた方がよい。
- ・学力との関係では、あくまでも目標は「人間関係づくり」であるから、相手意識をもったコミュニケーション力をアップさせていく形を目指し、それが学習活動では乗り入れ授業や学び合いにつながっていき、相乗効果として学力向上につながっていく構造だという示し方の方がつながりを感じさせる。

〈部会後のご指導〉（一部抜粋）

- ・教科の「指導の構想」での「重点指導内容」の書きぶり、表記の仕方が教科によって違い、ズレを感じる。共通の認識に基づく表記が系統性を生む。各科が一貫して、通して考えているところは、特に表記の仕方に注意が必要。
- ・乗り入れ授業は、どのような意味や効果が期待できるのかについて、中学校区の教職員間で共通の理解が図られていることが重要。「ここが効果的です」というものが示されたら大きな提案になる。

第3回小中一貫教育全体会…第一中学校区

「小中一貫教育全国サミット in 三条」に向けた標記研修会が、8月24日（月）嵐南小・第一中で開催されました。協議会における提案発表内容の検討や公開授業指導案の最終検討が行われました。



〔全国サミットに向けた取組についての確認〕 上村推進リーダー

- ・統一する文言⇒「子ども」「、」で統一する。※指導案では児童、生徒と表記する。
小中一貫カリキュラム授業は「協働授業」とする。
- ・指導案完成は8月28日（金）朝敵守。1秒たりとも待てない。
- ・単元名の下に「小中の学びの接続が分かるようなメッセージ的な文」を入れる。
- ・「本時の指導」では、「◎学習課題」と「評価方法」を入れる

【協議会における提案発表】 上村推進リーダーがパワーポイントで説明。主なものを掲載。

1 第一中学校区の特徴

- ◆小中学校が一体の校舎 ◆職員室が小中同じスペース ◆授業や交流活動がよりスムーズに

2 取組の実際

(1) 共同授業 ⇒ 目指す姿1「夢や目標を持ち、進んで学習する子ども（まなび）」

①「小中一貫教育カリキュラム」を活用した授業実践により、学力の向上を図っている。

- ・小中学校で校内研修の主題、副題を統一。
- ・教科ごとに小中学校職員がペアを作り、協働で9年間を見通した指導案を作成している。

②具体例 ・4年算数「面積」 ・小学5年生と中学1年生体育の合同授業「フォークダンス」 等

③成果（○）と課題（▲） ※紙面の都合で一部のみ記載

○小中学校教員が、互いの指導内容・指導方法の違いに気付いて協働で授業づくりを行い、授業改善の方法・見通しをもつことができるようになってきた。

▲研究教科の成果と課題を、他の学年・教科部でも共有できるようにする。

(2) 共同活動 目指す姿2「自他を大切にし、共に伸びる子ども（こころ）」

①児童生徒の交流活動を効果的に行うことで自己有用感・自己肯定感を高めている。

- ・年間行事計画に位置づけられている交流活動と日常的に行っている交流活動を実施している。
- ・活動後にアンケートを実施し、児童生徒の変容を把握し、次の活動に生かしている。

②具体例 ・いじめ見逃しゼロスクール集会 ・あいさつ運動 ・中学生の本の読み聞かせ

③成果（○）と課題（▲） ※紙面の都合で一部のみ記載

○交流活動を行うことで、特に中学生の自己有用感や自己肯定感が向上しつつある。

▲日常的に取り組める活動をより多く設定する。

【全体指導：新潟大学准教授 雲尾 周様】 一部抜粋

○「どんな特徴があるのだろうか」と思いながら来る参加者が多い。「一体校ができた時からごく普通にこういった取組が日常的にできるようになる。今は最初なので苦労するが、だんだん苦労せずスムーズにできるようになる。」という理想系に近いものも示したらどうか。それが特徴になる。

○目指す子どもの姿、研究主題等々が明確に示されている点が素晴らしい。学校は組織マネジメントに基づいて活動している。段階を下げるごとに具体化されていなければならない。この意味から、1つ1つの授業の積み重ねが目指す子どもの姿像につながっているのだという意識をもつことが重要。当日の授業は「研究主題がちゃんと授業の中に展開され、生かされているか」が大切です。

○中学校にとってのメリットをもっと強調したらどうか！発表を聞くと、「中学校教員の協力のおかげで小学校の授業はこうよくなった。」「小学校の授業はよくなっているが、中学校教員が忙しくなっているだけだ。」と受け取られかねない。小中一貫教育は“ギブ&テイク”ではなく“ウインウイン”（1つのことで両方がお得）の関係だということを強調して説明したらどうか。



プレゼン発表



全体指導（雲尾 周様）



熱心に聞き入る教職員



全体会後の教科部会

10月に開催される「小中一貫教育全国サミット in 三条」に向けた標記研修会が、8月26日(水)、裏館小で開催されました。プレ発表、指導者による講演、公開授業指導案の検討等が行われました

【協議会における提案のプレ発表】 上重推進リーダーがパワーポイントで説明。主なものを掲載。

- 1 第三中学校区の小中一貫教育 KUSSの会⇒K(上林小)、U(裏館小)、S(三条小)、S(三中)
 - ・学区の特徴⇒市内中心部に位置し、協力的で安定した地域コミュニティが形成されている。
- 2 テーマと設定理由
 - ・学びの宝庫(大自然、地場産業、伝統芸能、ふるさと教育) ・地域とともに歩む学校
- 3 特徴的な実践例
 - ①学び合いの授業 ②学びの一貫性の重視 ③小中連携の強化 ④小中連携の充実
 - ⑤人間関係形成能力の育成 ⑥小中交流授業・活動の充実 ⑦ゲストティーチャーの活用 等
- 4 これまでの成果
 - 学び ①学力の向上 ②家庭学習習慣の定着 学習意欲の向上
 - こころ ①憧れ意識、自己有用感の向上 ②三条市への愛着の高まり ③規則正しい生活習慣
- 5 課題 ▲さらなる学力の向上 ▲連携型小中一貫教育の短所の克服と長所の伸長



プレ発表：上重推進リーダー



講演会：講師の天笠 茂様



熱心に聞き入る教職員



教科部会で指導案を検討

【講演会：千葉大学教育学部教授 天笠 茂様】 演題「小中一貫教育の推進を図る中学校区のあり方」

I 義務教育学校の制度化 現場が先行し、それを後押しする形で学校教育法が改正された珍しい例

II 中央教育審議会の答申

- 1 制度化の目的は「義務教育全体の質的向上」である。
 - ・小中一貫教育の優れた取組の全国展開 ・既存の小中学校における小中連携の高度化の促進
- 2 二つの形態の制度化⇒「小中一貫教育学校」「小中一貫型小学校・中学校」(←三中学区)

III 授業交流による小中一貫教育

- 1 授業交流をもとに小中一貫教育を進めてほしい。特に小学校5年生と中学校1年生。
 - ①小中教師間の授業を通した合同の研修 ～指導技術と教材解釈力～
 - ②小中教師間の乗り入れ授業 ③複数学年での合同授業・活動の実施 ④カリキュラム研修
- 2 校種を超えた教職員の協働
 - ①小中一貫教育は、これまでの小・中学校の教職員の役割分担を見直し、9年間という時間を通して子どもの成長・発達にきめ細かく寄り添い、協働して手塩にかけて育てていく取組。
 - ②子どもの成長を図るに当たって、小学校は、中学校の教職員のもっているものを必要としており、中学校もまた、小学校教職員のもっているものを必要としている。
- 3 9年間を見通したカリキュラム
 - 学年の区切り方の工夫 ○小学校における職場訪問・体験の早期導入
 - 新領域「郷土学」を柱にした小中一貫教育 ○新しい学校文化・地域文化の創造 以下略

【プレ発表についてのご指導】 ※講演の中で述べられたものを抜粋しました。

- 小・中学校教員がTT授業を行うねらいは何か？教材なのか、分担なのか。もし分担ならば、場なのか、心理面なのか？それを明記すると、時間と経費を使って来る参加者に分かりやすい。
- 発表の中に「9年間のカリキュラム」が必要である。小中一貫教育ではカリキュラムの共有が必須。
- 縦の流れ(積み重ね)の中での当日の授業の位置付け・価値等が明記されているとよい。
- 小中交流授業・活動の様子は分かるが目指す姿に照らしたときの評価はどうか？
- 中学校の持ち出しになっている感がある。小中一貫教育は“ウインウイン”の関係でありたい。

「全国サミット in 三条」開催に向けて ~その4~

【サミットテーマ：みんなで創る小中一貫教育～三条市の挑戦～】

【第1日目の日程 10月22日（木）】

<p>第一中学校区 会場／嵐南小・第一中</p> <p>◆全職員が連携協力して児童・生徒を育てる授業づくり等の実践</p> <p>◆指導者 新潟大学准教授 雲尾 周 様</p> <p>◆日程</p> <p>12：45～13：25 受付</p> <p>13：30～14：15 小学校授業公開</p> <p>13：30～14：20 中学校授業公開</p> <p>14：30～16：00 第一中学校区協議会</p>	<p>第三中学校区 会場／裏館小</p> <p>◆ふるさと三条を誇りとし、次代をたくましく生き抜く児童生徒の育成 ～憧れ感・自己有用感を、地域とともに育むキャリア教育の実践～</p> <p>◆指導者 千葉大学教授 天笠 茂 様</p> <p>◆日程</p> <p>13：00～13：25 受付</p> <p>13：30～14：15 小学校授業公開</p> <p>13：30～14：20 中学校授業公開</p> <p style="text-align: right;">※中学2年生は小学5年生との交流</p> <p>14：20～16：00 第三中学校区協議会</p>
<p>第二中学校区 会場／一ノ木戸小・第二中</p> <p>◆「学び」「こころ」「からだ」「ちいき」～9年間のつながりを意識して～</p> <p>◆指導者 筑波大学教授 藤田 晃之 様</p> <p>◆日程</p> <p>10：35～11：00 受付</p> <p>11：20～12：10 中学校授業公開</p> <p>11：25～12：10 小学校授業公開</p> <p>12：15～13：15 昼食（弁当）・休憩</p> <p>12：40～13：15 受付（午後からの参加者）</p> <p>13：20～14：05 小学校授業公開</p> <p>13：20～14：10 中学校授業公開</p> <p>14：35～16：00 第二中学校区協議会</p>	<p>大島中学校区 会場／大島小・須頃小・大島中</p> <p>◆小規模校における人間関係を中核とした取組～学び合う授業・協働する教職員・つながる地域～</p> <p>◆指導者 奈良教育大学教職大学院教授 小柳 和喜雄 様</p> <p>◆日程</p> <p>11：00～11：20 各小学校受付</p> <p>11：25～12：10 各小学校授業公開</p> <p style="text-align: center;">12：20 専用バスで大島中学校へ移動</p> <p>12：30～13：20 昼食（弁当または給食）・休憩</p> <p>13：00～13：30 受付（午後からの参加者）</p> <p>13：30～14：20 中学校授業公開</p> <p style="text-align: center;">パネルディスカッション</p> <p>14：30～16：00 大島中学校区協議会</p>

【第2日目の日程 10月23日（金）】 会場／第一中学校・嵐南小学校一校

9：00～ 9：30	受付								
9：30～16：00	ポスター展示（市内9中学校区、正会員取組紹介）								
10：00～10：30	開会行事								
	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="padding-right: 20px;">開催地代表歓迎挨拶</td> <td>三条市長 國定 勇人</td> </tr> <tr> <td>主催者代表挨拶</td> <td>三条市教育長 長谷川 正二</td> </tr> <tr> <td>来賓挨拶</td> <td>文部科学大臣 下村 博文（予定）</td> </tr> <tr> <td>来賓挨拶</td> <td>新潟県教育委員会教育長 高井 盛雄</td> </tr> </table>	開催地代表歓迎挨拶	三条市長 國定 勇人	主催者代表挨拶	三条市教育長 長谷川 正二	来賓挨拶	文部科学大臣 下村 博文（予定）	来賓挨拶	新潟県教育委員会教育長 高井 盛雄
開催地代表歓迎挨拶	三条市長 國定 勇人								
主催者代表挨拶	三条市教育長 長谷川 正二								
来賓挨拶	文部科学大臣 下村 博文（予定）								
来賓挨拶	新潟県教育委員会教育長 高井 盛雄								
10：30～11：30	基調講演								
	<p>演題 「何故今、小中一貫教育が求められているのか」</p> <p>講師 文部科学省初等中等教育局初等中等企画課教育制度改革室室長補佐 武藤 久慶</p>								
11：40～12：10	プレゼンテーション 「三条市の小中一貫教育の取組と成果」								
	「文部科学省委託研究の取組と成果」								
12：30～13：10	ポスターセッション（市内9中学校区）								
13：30～15：30	シンポジウム コーディネーター 新潟大学准教授・雲尾 周								
	<p>パネリスト 基調講演講師・武藤久慶 千葉大学教授・天笠 茂</p> <p>筑波大学教授・藤田晃之 奈良教育大学教職大学院教授・小柳和喜雄 三条市立嵐南小学校長・高橋邦彦</p> <p>1部「小中一貫教育の取組の成果と課題の検証、課題解決の方策を語る」</p> <p>2部「小中一貫教育法制度化における現在の課題と改善策、留意点を探る」</p>								
15：30	閉会								

